

第17回全国シンポジウム

「地域推薦卒医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」

新たな地域医療構想を踏まえた教育実践 ～高齢者救急・在宅医療について～

2026年3月6日(金)

於：ハイブリッド開催 会場:一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内)
オンライン:ZOOM配信

今年で第17回となりますオンラインでの全国シンポジウムを開催させていただきました。

今回のテーマは「地域推薦卒医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」～高齢者救急・在宅医療について～ということで、各大学・医療機関、行政、一般など全国から多くの方々にご参加いただきました。

過去の本シンポジウムでは、地域卒医学生の教育手法および離脱予防を含めたキャリア構築について議論し、地域卒制度の運用に関する課題についてある程度の結論は得られました。地域卒制度の導入により、地域の医師数は確実に増えてきています。2025年度に向けた地域医療構想に関する討議が終了し、2040年に向けた新しい地域医療構想が策定されつつありますが、そこでは、医療需要を睨みつつ、①高齢者救急・地域急性期機能、②在宅医療等連携機能、③急性期拠点機能(手術・救急等の集約化)、④専門等機能(リハ・長期療養・特定診療科等)、⑤医育および広域診療機能(大学病院の医師派遣・教育等)の新しい“医療機関機能”が定義されました。そこで、地域で就労する地域卒医師に今後求められる、これらの機能に関する教育の重要性を鑑み、今回は、テーマを「新たな地域医療構想を踏まえた教育実践 ～高齢者救急・在宅医療について～」とし、地域の医療機関で就労した当事者医師及び、その管理者から経験と考えを聞き、地域卒制度の効果や課題について討論を行いました。

ご参加いただきましたの方々、本当にありがとうございました。

－プログラム－

日 時：2026年3月6日(金曜日) 13:00～16:10

開催方法：ハイブリッド開催 会場:一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内)
オンライン:ZOOM配信

参加費：無料

参加者：地域卒医学生に関する事象に携わる自治体・大学・学生・医療機関並びに
地域医療教育に興味のあるの方々、地域医療支援センター関係者など

司 会：牛越 博昭(岐阜大学 医学部附属地域医療医学センター長/教授)
大脇 哲洋(鹿児島大学大学院 離島へき地医療人育成センター/地域医療学分野 教授)

13:00 開会挨拶 開催趣旨説明

13:05 基調講演1:「新たな地域医療構想について」
厚生労働省 医政局 地域医療計画課 地域医療構想推進室長 堤 雅宣 様

13:35 基調講演2:「高齢者救急と在宅医療の教育」
八戸市立市民病院 事業管理者 今 明秀 先生

～シンポジウム～

14:05 1-1.「三次医療機関の救急外来で「判断できる医師」を育てる
Disposition decision を軸とした教育実践」
兵庫県立はりま姫路総合医療センター 救急科 高田 健司 先生

1-2.「地域卒医師として地域に根ざした救急医療を担う
新たな地域医療構想を踏まえた高齢者救急のあり方」
兵庫県立はりま姫路総合医療センター 救急科 港 海斗 先生

～シンポジウム～

- 14:20 2-1.「地域高齢者救急の現状と専攻医教育の実践」
霧島市立医師会医療センター 救急科 小迫 拓矢 先生
- 2-2.「地域高齢者救急の現状」
霧島市立医師会医療センター 救急科 中村 壮史 先生
- 15:40 休 憩
- 14:50 3-1.「指導医による「ちゃんぽん総診」レシピ編」
長崎大学病院 総合診療科 濱田 航一郎 先生
- 3-2.「専攻医による「ちゃんぽん総診」クッキング編」
国民健康保険平戸市民病院 総合診療科・内科 山田 琢生 先生
- 15:05 4-1.「教育を組織の駆動力へ転換する在宅診療所の実践
～参加型研修から「働きたい」場所へ～」
医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 院長 藤井 浩史 先生
- 4-2.「学生時代の研修について」「研修医の研修について」
岐阜市民病院 仲 陽香 先生、前田 紗良 先生
- 15:25 討 論
16:10 終 了



座長



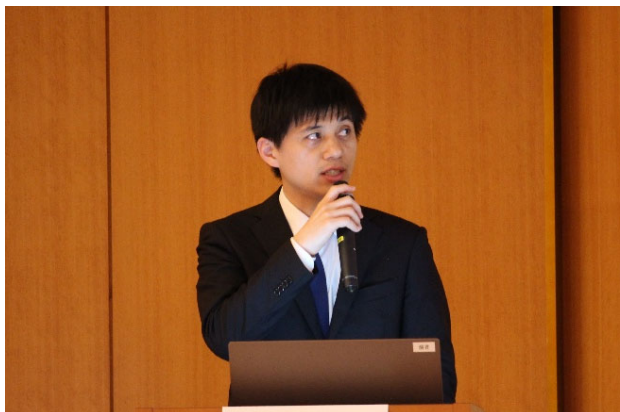
今 明秀 先生



高田 健司 先生



港 海斗 先生



小迫 拓矢 先生



中村 壮史 先生



濱田 航一郎 先生



山田 琢生 先生



藤井 浩史 先生



仲 陽香 先生、前田 紗良 先生



討論